

令和5年度 学校経営計画書

学校番号	66	学校名	静岡県立磐田北高等学校	校長名	平野 貴久
------	----	-----	-------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

校訓「優しく 逞しく 誠実に」のもと、多様な生き方や価値観を認め、人との関わりの大切さを体験から学ぶ教育を通して、自他の人間性と人格を尊重し、個人として自立することができる生徒を育成する。また、進学から就職まで生徒の多様な進路希望や一人ひとりの適性に応じた学びを実現し、心身ともに健康なたくましさや未来を切り拓き、社会の変化に対応できる資質・能力及び実践力をもつ生徒を育成する。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
～本校では卒業までにこのような力を身に付けます～ ・他者を思いやり、協働しながら自己の能力を発揮し、地域社会に貢献する力 ・課題解決に向け、粘り強く取り組み、未来を切り拓いていく力 ・自分の可能性と真摯に向き合い、チャレンジしようとする力	～本校ではこのような学びを行います～ ・四年制大学進学をはじめとし、就職も含めた多様な進路に対応した学び ・1人1台端末を活用した個別最適な学習 ・自己有用感・自己肯定感を得られる講演や体験活動 ・3カ年を貫く「総合的な探究の時間」と「オンリーワン・ハイスクール」	～本校ではこのような生徒を求めています～ ・仲間と関わり、共に思いやる心を持つ生徒 ・自ら学び、自己の目標に向かって努力することができる生徒 ・地域や世の中に目を向け、課題を見つけ、解決・貢献しようとする意欲のある生徒 ・明るいあいさつ、元気な返事、いつでも笑顔

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア 生徒一人ひとりが自らの資質・能力を高め、将来において社会的に自己実現が出来るようになるための自己管理能力を育成する。

イ 高い志を実現するために、学習や体験的な活動に積極的に向かう主体性を育成する。

ウ 個としての自分を大切にし、他者との関わりの中で自己有用感を育み、集団の一員として責任のある行動をとる社会性・人間性を育成する。

エ 学校・家庭・地域と連携した教育活動を行い、保護者・地域に信頼される学校づくりを推進する。

オ 教職員が心身ともに健康で、縦横の連携・協働を図りながら、心理的安定性のある職場づくりや業務改善を推進する。

カ 【福祉科】福祉マインドを持ち、医療分野等との連携ができる高度な知識・技能を習得することで、共生社会の創造と地域福祉に貢献する人材を育成する。

様式第1号

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らによる服装の点検や積極的なあいさつ運動 スマホの適切な使用（マナー、使用時間等）について、保護者と連携して指導し、自己管理を徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じた服装や態度ができる。（90%） スマホを適切に使用している（60%） 	生徒課
	学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間調査、学習計画の実施と活用 メタ認知能力の育成を意識した「振り返り活動」の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に学習に取り組んでいる（80%） 	教務情報課 各教科
	生徒の学力にあった指導方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> 各種のテスト（含「スタディサポート」＝「高校生のための学びの基礎診断」測定ツール）の結果から生徒の基礎学力を分析し、授業方法、教材、課題（平常の宿題、週末課題、長期休業中の課題）の随時見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 授業がわかる。（80%） 	各教科
イ	魅力的な授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なICT機器の活用についての研究 授業公開週間を活用し、互いに授業を参観する雰囲気の醸成 観点別評価についての研究の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業に主体的に取り組んでいる。（80%） 	図書研修課 教務情報課 全職員
	一人ひとりの視野を広げる活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の検討と実施 校外学習や高大連携、卒業生、外部人材を活用したキャリア教育の推進 図書委員会の活性化と読書週間の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら計画して校外学習に参加した。（100%） 生徒が企画した図書館だよりの発刊。（毎月1回） 	進路課 図書研修課
ウ	生徒主体の学校行事・部活動及びボランティア活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の企画・実施を生徒主体に行うために、LHR等においてリーダーの育成を意識した活動の実施 部活動への自主的活動参加とボランティア活動への参加を推進及び充実 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動単位でのボランティア活動の完全実施。 学校行事を生徒が主体的にかかわれるよう企画。（80%） 	生徒課 保健課 福祉科
	多様な他者との共生の推進	<ul style="list-style-type: none"> 共生共育の視点を取り入れた行事、活動の充実 SNSの活用について、常に他者の人権を意識した情報発信となるような啓発活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 見付分校との交流の場の促進 SNSに関連した啓発活動を学期に2回は行う。 	生徒課 保健課

様式第 1 号

	学校の一員としての施設の使用	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や部室の整理整頓 ・清掃、ごみ捨ての徹底 ・共有の場所の使用方法理解 ・私物管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が整理整頓されて清潔に保たれている。 ・部室や教室における盗難の件数ゼロ 	
	心身ともに健康で安心・安全な学校生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係エクササイズと1分間カウンセリングの実施と活用 ・安全点検の定期的実施と迅速な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校には自分の居場所がある。(95%) 	
エ	地域への情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを用いた積極的かつ目的をもった情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ年150回以上の更新 	
	防災体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の帰宅方法の具体化。 	総務課
	P T A 活動等の整理及び推進	<ul style="list-style-type: none"> ・役員選出方法の変更に伴う課題を整理 ・教育振興会の在り方についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善策を次年度の総会で提案する。 	
	信頼ある窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の窓口として常に丁寧な対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口業務関係の苦情ゼロ。 	事務室
オ	多忙化解消のための業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の目的の明確化 ・業務の見直し(工夫、代替、分担、削減) ・生徒端末導入やアプリの導入及び効果的な活用と実践 ・部活動ガイドラインの理解と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選・改善・効率化を提案又は実践する。(職員の80%) ・ICT活用が「できる」「ややできる」(職員の80%) ・夏季休暇の完全取得 	全職員
	適切な業務の遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・各所で、チームや個人が、ルールを十分に理解し、それに則って業務を遂行 	<ul style="list-style-type: none"> ・監査等での指導・指摘事項ゼロ ・勤務時間管理システムを活用し、自らの働き方を把握する(職員の100%) 	全職員
	ミドルリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の活性化のための、中堅～若手の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関する具体案を提案する。 	図書研修課
カ	地域福祉に貢献できる人材の育成 関連分野の資格取得を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力及び基礎的な介護技術の習熟の徹底と福祉マインドの高揚のためにICTを活用した効果的で主体的な学習の研究 ・自分自身の心身の健康管理 ・外部との連携を密に行った、介護職としての深い学び ・介護技術コンテストの上位入賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験全員合格(100%)。 ・各種大会で、授業や実習など日頃の学びの成果が現れる結果を目指す。 	福祉科